

こんな社会だけど「生まれてきて良かった」、
1人でも多くの人にそう思ってもらいたい——
私が、社会課題解決人材を応援する会社
「taliki」を立ち上げた理由だ。

きっかけは、大学在学中に体験したカンボジアでの小
学校建設。現地のお母さんたちにとっても感謝されたが、
この子供たちが10年後、20年後もずっと笑顔であり続け
られるには、NGOとして学校を建設するボトムアップの活
動だけでは足りない。

そう思い、1年間休学し、大統領選さなかのニューヨー
クへ。現地報道局に勤務し、社会の声を取材した。そこ
でわかったのは、大統領でも社会からこぼれ落ちた人
には十分アクセスできず、トップダウンだけでも世の中は変え
られないということだ。

トップとボトムの間にいる、圧倒的な数の無関心層
を社会課題解決のプレイヤーへと変えることができれば、
救われる人が増える——そう思い至って、社会課題解
決をめざす人を増やそうと「taliki」を立ち上げ、社会
課題を見つけるWebメディア運営から始め、コワーキン
グスペース運営、関西におけるU25の社会起業家の支
援・育成プログラム運営（タリキチプロジェクト）へと、活
動を広げてきた。

プレイヤーとして活躍できるのは、強くって優しい人。現
実に社会課題を解決していけるメンタルタフネスや実
行力などの「強さ」と、他者に寄り添える「優しさ」。両方
を併せ持つ人を育てることに力を入れている。

社会課題の解決をめざすとき、人々の義務感や危機
感を煽ることが多いが、それでは続かない。人は義務感
よりも、自分が「やりたい」という気持ちで動くとき圧倒的
に力を発揮するし、自走できる。自分がとても楽しいことを
していたら、誰かのためになっていた——そんな、ワクワク
しながら社会課題を解決する人を増やしたい。

学生密度が日本一高いと言われる京都で、若手起業
家を輩出する連携・協業のしくみ「エコシステム」をつくり
たいが、京都そして関西は東京に比べ若者に投資する
風土がなく、起業をめざす若者が関西に留まるインセン
ティブはない。関西企業はもっと若者に手を貸してほし
い。優秀な若者への投資こそが、きっと将来の関西に大
きなリターンを生むはずだから。📖

社会起業家を 増やしたい

中村多伽 taliki代表



多くの若者が集まる京都・今出川にある
コワーキングスペース

Taka Nakamura

なかむら たか

1995年東京生まれ。小学生でwebサービスを展開、中高時代は舞台女優をめざ
すも挫折、京都大学入学。カンボジア教育支援プロジェクトPumpitの代表として
2校の小学校建設などを行う。その後、休学してニューヨークのビジネススクール
に通いながら、アシスタントプロデューサーとして現地報道局に勤務。多様な経験
を通して「ワクワクしながら社会課題を解決するのが当たり前の社会」の必要性を
感じ、帰国した大学4年生時に株式会社talikiを設立。現在は京都で若者のイン
キューベーション事業やメディア運営を行う。

<https://www.taliki.co.jp>

季刊 [やく] September 2018 | No. 36

C O N T E N T S

02 Person 人・明日をつくる

社会起業家を増やしたい

中村多伽

03 [鼎談] 基軸を探る

産業発展と競争戦略を考える

町田 徹／川口盛之助／秋山咲恵

18 オピニオン

産業競争力への視点

日本の産業

「負のスパイラルから好循環へ、逆転の時」安田洋祐

競争戦略

「読めない時代の乗り切り方」栗木 契

関西経済

「持続的成長へ、内発的発展のしくみづくりを」上村敏之

25 旬発 NIPPON

中之島に未来医療国際拠点

——再生医療の臨床研究から産業化まで一貫推進

29 かんてん FOCUS

総合営業で本格攻勢をかける

藤野研一

34 現場力ノ最前線

付加価値サービスでお客さま満足度を上げる